

「世界に開かれた多面的日本研究の実践」

日台合同研究プロジェクト

環境情報学部 2年 坂口 健太

1. 本活動の目的と概要

本活動では、日本の近現代における政治外交を主題とした研究を、日本と台湾の学生がお互いに発表し、国内だけでなく国外から見た「日本」への意識、理解を深め、共有することを目的とする。今回、我々と交流する台湾の国立政治大学は、唯一の上級公務員養成学校として数多くの官僚たちを輩出してきた台湾トップクラスの大学である。

本活動は2015年9月8日～10日の3日間において、清水唯一朗研究会に所属する学部生9名、院生4名と国立政治大学日本研究課程の院生9名、そして6名の専門家に協力を得ながら、政治学・歴史学のアプローチを用いた日本の近現代の政治外交に関する理解を獲得する場を構築した。

【ご協力頂いた専門家の方々】

清水唯一朗（慶應義塾大学総合政策学部准教授・国立政治大学国際事務学院日本研究プログラム客座准教授）

李世暉（国立政治大学国際事務学院教授兼日本研究プログラム主任）

石原忠浩（国立政治大学国際事務学院日本研究プログラム准教授）

白田直子（国立政治大学国際関係センター『問題と研究』マネージャー・エディター）

江雅琦（国立政治大学国際関係センター日本研究プログラム助手）

阿部久美子（財団法人交流基金 専門調査員）

2. 本活動の成果

今回の活動では各人の関心に沿って調査した成果を両大学の学生が交互に発表し、その内容に対する質疑応答を行う合同発表会型の形式をとった。

我々は常日頃、ものごとを多面的に捉えるよう意識してきたが、実際に異国の地へ自ら足を運び、議論を交えることで、同じ日本政治を学ぶ学生であってもバックグラウンドが異なるが故に共有できること・できないことが存在することを実感できた。とりわけ印象深かったものは、日本の安全保障に関する台湾学生の発表であった。この研究は日本で行われているものとは違ったアプローチからの研究がなされており、日本国内の議論では見られない角度から「日本」を見つめ直す良い機会となった。

日本人学生自らが世界に赴き日本を発信する経験は、世界に開かれた日本研究の拠点を築き、新たな日本理解の場を作るきっかけをもたらした。さらに、来年の6月には国立政治大学から学生を日本にお招きすることも決定し、継続的な日台の学生同士による合同研究プロジェクトの良い足がかりができた。

以上のことから本活動は十分な成果をあげることができたと言える。

【主な発表タイトル】

- ・慶應義塾大学 政策・メディア研究科 博士課程二年 三谷宗一郎
「なぜ入院承認制度は廃止されたのかー公的医療保険の保険者審査機能をめぐる政治過程」
- ・慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士課程二年 小野田亮
「戦後日本の戦没者追悼事業-GHQ の占領政策と靖国神社の再出発を事例にー」
- ・慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士課程二年 濱田英明
「民主党鳩山内閣における税制改革の挫折-マニフェスト実現の阻害要因」
- ・国立政治大学 国際事務学院 日本研究修士プログラム二年 蔡彦亭
「アイドルブランドの競争優位性-AKB48 グループを例として」
- ・国立政治大学 国際事務学院 日本研究修士プログラム二年 許愈欣
「日本の安全保障-その変遷と課題」
- ・国立政治大学 国際事務学院 日本研究修士プログラム二年 魯詩亮
「民主党執政後日本外国人労働者問題封策之轉變」



(政治大学での集合写真)



(日台合同発表会の様子)

3. 今後の課題

今回の活動を通じて強く感じたのは、日本とは異なる歴史・文化・政治制度を持つ国外の人に、日本の政治空間では“当然”とされていることを、その経緯まで含め、改めて説明する難しさである。それ故、我々は異なる政治空間にいる人にも理解可能な言葉に置換する能力を醸成しなくてはならないと実感した。来年の6月に控えた合同研究プロジェクトを今回の活動以上に熟達させていくのと同時に、台湾のみならずより多くの国々へ活動の場を広げていきたい。

4. 謝辞

本研究会の開催にあたり、研究会にご協力頂いたすべての皆様、そして、資金面でのご支援を頂いた湘南藤沢学会様に厚く御礼申し上げます。